

石田都紀 Toki Ishida

1999年 女子美術大学造形計画部卒業(インテリアコース専攻)

1999年 渡仏し、アトリエ・コントルポワンにて銅版画制作を始める。

2000年 第7回salon des artistes contemporain (パリ)

2002年 第25回 salon du 14eme arrondissement(パリ)。

個展(東京 ギャラリール・デコ)。

2003年 第7回若き画家たちのメッセージ展(すどう美術館、東京)

2005年 jeunes artistes de l'atelier (パリ) 3人展(ギャラリーユイット、東京)。

BIENAL international de gravura do doura (ポルトガル)

2008年 グループ展(パリ)

2009年 グループ展(パリ) L'ARTE E IL TORCHIO / ART AND THE PRINTING PRESS 2009 (クレモナ・イタリア)

2010年 グループ展(パリ) 個展(OギャラリーUP・S 東京)

2011年 Journée de l'estampe contemporaine (パリ) festival-losserand—festival des Arts (パリ)

2018年 グループ展 «アトリエ・コントルポワンの画家たち展»(銀座三越ギャラリー、東京)

2019年 グループ展 «アトリエ・コントルポワンの画家たち展»(銀座三越ギャラリー、東京)

【パブリックコレクション】 Museu do Douro (ポルトガル)・Cremona Civic Museum (イタリア)

アトリエ・コントルポワン

イギリス出身の画家、銅版画家のS.W.ヘイターが1933年からパリで運営した版画工房。番地にちなんでアトリエ17と名づけられた。工房はシュルレアリストを中心とする同時代の作家たちの溜まり場のひとつであった。ヘイターのアメリカ亡命に伴い1941年からはニューヨークで再開し、先鋭的なアーティストたちに助言を与えるとともにアメリカにおけるシュルレアリスム受容および現代版画史において先駆的な役割を果たした。青年期を過ごしたフランスでシュルレアリスムの影響を受けたヘイターは実験精神にあふれ、インクの粘度の違いによって色を刷り分ける独自の一版多色刷エッチングを編み出すなど技術開発に旺盛であった。複製技術にとどまらないオリジナル・プリントを生み出す知識と熱意は多くのアーティストをひきつけ、P・ピカソ、J・ミロ、A・マッソン、M・シャガール、W・カンディンスキーらヨーロッパからの亡命作家をはじめ、W・デ・クーニング、J・ポロック、M・ロスコなどが作品を制作している。これら作家名からも分かるとおりアトリエ17の活動は、パリからニューヨークへ美術の拠点が移ったとするいわゆる「二都物語」とも深く関わっている。1950年にはヘイターがパリへ戻って元の場所に再び工房を構えた。1988年のヘイター没後は「アトリエ・コントルポワン」と工房名を変えて活動をしている。石田都紀はアトリエ・コントルポワンに所属しヨーロッパを中心に活躍中の若手銅版画家。



※作品のお問合せ、ご購入は電話:03-5649-3710 Email:info@sankaibi.com まで。 表示価格は額付き価格です。額の色などご希望でお選びいただけます。





15時15分に

一版多色刷り 銅版画 5/10 9.9×9.9cm (画面サイズ)



2-5 石田都紀

MARGARITA

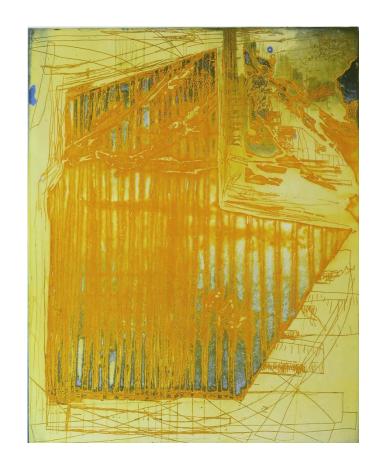
一版多色刷り 銅版画 3/10 39.5×39cm(画面サイズ) 2000年作



3-3 石田都紀

Un jour joyeux 幸せの日

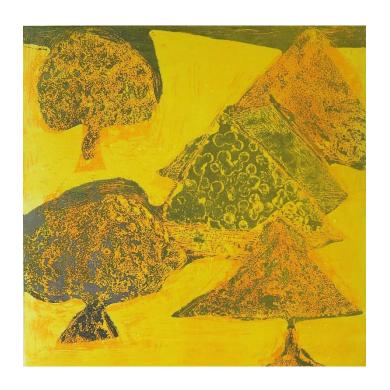
一版多色刷り 銅版画 3/10 39.5×49cm(画面サイズ) 2002年作



4-8 石田都紀

Le beau moment 美しき時

一版多色刷り 銅版画 10/15 49.5×39.5cm(画面サイズ) 2002年作





5-6 石田都紀

ヤギのなる木

一版多色刷り 銅版画 10/10 39.5×39cm(画面サイズ) 2001年作 6一4 石田都紀

Maroc の赤壁

一版多色刷り 銅版画 5/10 39.5×49.5cm(画面サイズ) 2001年作



7-S 石田都紀

Cactus サボテン

一版多色刷り 銅版画 4/10 39.5×39cm(画面サイズ) 2002年作



8-2 石田都紀

サボテンの花

一版多色刷り 銅版画 13/10 29.4×19.7cm(画面サイズ) 2000年作